

2019 年度 滝川市立高等看護学院

## 滝川市立高等看護学院関係者評価委員会議

1. 開催日時 : 2020 年 7 月
2. 会議方法 : 新型コロナウイルス感染症予防のため書面での意見交換とする。
3. 委 員 : 元看護専門学校 教務課長 (実務経験者)  
滝川市立病院 師長 (実習病院職員)

### 4. 外部評価委員提言内容

項目	ご意見
教育理念・目的	・評価項目2・3において、科目や教授内容を含めて評価をしていますが、ここは理念・目的として文言に明示されているかどうかを点検評価されるとよい。 ・卒業生の就職後のアンケートや臨地実習の情報交換などの実施状況から勘案すると、言語化されていない「設置目的」が貴学の理念として、日々の行動に反映されているように思いますので、再度、職員内で教育理念・目的について共有し、教育活動の指針になるように明文化されてはいかがでしょうか。
教育目標	・評価の視点が明らかであり、妥当です。教育目標と連動した、卒業生のアンケートも行っており、改善が必要な部分も明確になっており適切な評価です。
教育課程経営	・シラバスでは、科目・単元構成・計画・評価が明示されており適切に運営されています。また、学生の学習を活性化させる授業形態の工夫も認められます。 ・今後、教授内容のマトリックスを作成することにより、効果的に教育を行うための課題も明確になっており、適切な評価です。
教授・学習・評価過程	・教育内容が明示されており、学内でも妥当性について検討されています。評価方法の課題も明らかであり、適切な評価です。
経営・管理過程	・限られた財政の中で、学生および教職員が活用しやすい施設整備に尽力されていることは伝わってきます。一方で、卒業生のアンケート内容をカリキュラムだけに限定するのではなく学生の支援が適切であるかという視点を取り入れ改善することで新たな課題が明らかになると思います。 ・また、学院の施設整備などについて、中・長期計画はどのような内容であるのか、理念・目的の達成のために具体的で実現可能な計画なのかについて、今後検証されることを望みます。
入学について	・面接の評価基準の設定、選抜方法の検討がされており適切です。

卒業・就職・進学 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業時、卒業後1年目のアンケートを実施しており、今後の課題も明確になっているので適切であると考えます。しかし、卒業生のアンケートの回答数の少なさ、就職先の評価が一部の施設であること、卒業後アンケートが「出来ていないこと」に目が向く設問であるため、卒業生の活動の把握という点において偏りが懸念されます。今後、卒業生の活動状況を幅広く把握し、教育理念・目的・目標・授業展開に活用されることを期待します。</li> </ul>
地域社会・国際交 流について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動に貢献するとともに、地域の特色を教育活動に活用できていることは、評価に値します。また、国際交流については、課題も明確であり評価は妥当であると考えます</li> </ul>
研究について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の研究活動に対して、時間・財政・環境が保証されており、支援しあう文化的素地があることは、とても恵まれていると感じます。しかし、項目1では、判断基準が研究活動をしているという点のみであるため、時間・財政・環境がどのように保証されているのか文面化し、さらに良い体制への足掛かりとなるように整備をされるとよいと思います。</li> </ul>
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各項目について、詳細に評価され課題と今後の対応策について丁寧に検討されたことが伺えました。課題が明らかになっているので、改善にむかって検討実施という運びになると思います。</li> <li>・現在、コロナウイルス感染予防の対策として、授業形態の変更などに取り組むなど業務負担が増えていると拝察します。今後、カリキュラム改正なども控えており、従来と比べて業務内容、量ともに増え煩雑になっていきます。そのなかで、学生の教育に携わる教員の心身の健康は重要な要件だと思えます。したがって、事務作業も含めたタスクの洗い出しを行い、業務の適正化に努めながら作業にあたる必要があると思います。</li> <li>・卒業時と卒業後1年目の自己評価点の乖離が気になります。学生時代にどこまで現実をみてもらったらいいいのか、憧れや理想だけでもやっていけないとも思い、日々葛藤しております。</li> <li>・実習施設ともさらに連携し、学生が実習を実践しやすい環境づくりを行うと同時に、就職後のギャップを少しでも軽減できるようにしていきたいと思えます。</li> </ul>